

1. 評価結果概要表

作成日 2007年12月17日

【評価実施概要】

事業所番号	0370800229		
法人名	医療法人社団 敬和会		
事業所名	グループホーム とおの		
所在地	岩手県遠野市松崎町白岩13-30-8 (電話) 0198-60-1271		
評価機関名	(財)岩手県長寿社会振興財団		
所在地	岩手県盛岡市本町通三丁目19番1号		
訪問調査日	平成19年10月24日	評価確定日	12月17日

【情報提供票より】(19年 10月 5日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	昭和・平成	16	年	4	月	1	日
ユニット数	1	ユニット	利用定員数計	9	人		
職員数	7	人	常勤	6	人	非常勤	1
			常勤換算	6.5	人		

(2) 建物概要

建物構造	木造平屋	造り
	1階建ての	1階 ~ 階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	24,000	円	その他の経費(月額)		円	
敷金	有(円)		無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(円)	有りの場合 償却の有無		有/無	
食材料費	朝食		円	昼食		円
	夕食		円	おやつ		円
	または1日当たり		1,000	円		

(4) 利用者の概要(月 日現在)

利用者人数	9	名	男性	4	名	女性	5	名
要介護1	3	名	要介護2			4	名	
要介護3	2	名	要介護4				名	
要介護5		名	要支援2				名	
年齢	平均	79.8	歳	最低	73	歳	最高	88
								歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	遠野病院、菊池内科クリニック、六角牛病院、両川歯科
---------	---------------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

県立遠野病院より北西500メートルの場所にあり、周囲を畑に囲まれ、遠く早池峰連山を望む、景色の良いところにある。北上市に本部を置く医療法人社団敬和会に属し「老健施設とおの」と隣接し連携が図られている。建物は木材をふんだんに使い、やさしく、暖かい雰囲気作りに気配りがされている。前回評価の改善指摘の項目について、改善されていない項目もあり、今後の見直しが期待される。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	金銭(小遣い)管理の明確化と家族への報告について、指摘部分の改善がされていない。書類の作成、活用の仕方についても、改善の余地がある。居心地の良いホームなので、職員の研鑽を期待したい。
重点項目②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	開所4年目に入り、職員も少しずつ責任を持ち、意見を出してきている。意見の積み重ねを改善、改良に向けて活用してほしい。
重点項目③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	運営推進会議のメンバーの幅を広げて、地域の多くの方の意見を聞くことにより、ホームへの理解も広がると、思われる。区長さんの参加が少ないのが残念であるが、何度も声を掛けて参加の促しをして欲しい。
重点項目④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	家族からの苦情は特にはない。離れて住んでいる家族が多いので、入居者の様子を色々な方法で家族に伝えて欲しい。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	保育園・小学校・ボランティア・地主さん等少しずつではあるが交流が持たれてきている。待つだけでなく、積極的にこちらから働きかけていけば、尚良い。

2. 評価結果(詳細)

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	事業所の理念として「その人らしさを大切に 明るく共に笑顔で過ごせるやすらぎの家」を掲げ、事業所内にも掲示しており、開所時に作られた理念を現在も使っている。地域密着型サービス事業所としての見直しはまだ行っていない。	○	今後、この理念を「地域の中で暮らす」という視点を盛り込んで再考したいという考えを持っているので、職員皆で、意見を出し合い、理念の見直しを期待したい。
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	9月に行われた法人の研修の「よりよいケアを目指して」に参加して、気が付くところが多くあり、職員同士で共有が図られた。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	市や地区の行事に参加、自治会の方30人程が踊りの練習にグループホームを利用してくれた。今後、自治会に加入し、地域とのつながりを、強くしていきたい。また、近くの保育園の子供たちが散歩の途中に立ち寄ることもある。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	9月に職員5人が自己評価をしたが、前回の評価で明らかとなった課題の改善が不十分なところが見受けられる。食中毒の学習会は行われたが、金銭管理の仕方についてはまだ検討されてない。また、管理本部からの指導を受けながら、権利擁護等についても学習を積んでいきたい。	○	今回の自己評価の内容が職員全体に共有されていないように思われる部分があるので、意識共有し、明らかになった課題を先延ばしせず、1つ1つ確実に具体的な改善につなげていく努力が望まれる。前回指摘のあった、金銭管理と報告方法について検討の余地ありで、改善に繋げる事を期待する。
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	夜間の緊急マニュアルを見直し、作成をした。身近な地域の代表である区長さんの参加を促し、幅広い意見の取入れを図っている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市の担当者との連携はあまり図られていない。市からの連絡を待つだけでなく、ホーム側からも進んで、働きかけて欲しい。	○	グループホームの実情や、抱える問題について市の担当者と共有出来るように、広報を配布したり、進んで足を運び、顔なじみの関係を作ったり、情報交換を工夫することが望まれる。また、入院等で空室になることも考慮して、ショートステイ等も検討をして欲しい。市のケアマネ会議にも参加することを期待したい。
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	月1回請求書と近況を報告する手書きの手紙を、家族の元に郵送している。家族との面会は市内の2人は月1回、遠方の家族は年2～3回位のこともある。	○	小遣い金の報告と近況の写真、見直したケアプランの確認等を同封することを望む。
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族会は作られていないが、アンケートで、家族の意見を聞くことはしている。	○	メールでのやり取りは2～3件あるが、文字として残されていない。色々な方法で聞くことをして欲しい。家族が集まる機会を設け、家族が苦言を言えないのでは、と気持ちを推し量る取り組みが望まれる。
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	定期的な異動はない。11月老人保健施設からの補充が、1名ある。時々グループホームに顔を出してもらって、馴染みの関係をつくるようにして貰っている。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	事業所内の勉強会、グループホーム協会の研修には積極的に参加(交代で)しているし、希望の研修も受けることは可能である。所内の研修はその時々課題で取り組んでいる。	○	法人・事業所共に研修の計画がない。職員からの研修内容の希望を取り入れながら、意識的に職員を育てていくためにも年間の計画立案を期待したい。
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	沿岸ブロックの研修会、交流会、市内他ホーム(3箇所)との交流は盛んである。市内のデイサービスにも研修に出かけたり、市内のグループホーム職員同士の親睦も図っている。交換研修では学ぶことが多い。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居前に見学をして頂いている。入居を渋っていた人が、顔なじみの方と会い、お互いの部屋を訪問して、仲良くお茶を楽しんでいた。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	職員と利用者は親しい関係が築かれている。入居者の表情から言いたいこと、したいことを、すばやく察知し対応している。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ゆっくりと、共に過ごす時間を作り、本人の視点で、思いを共有している。	○	本人の生活歴を把握して、家族への想い、趣味、やりたいこと、心身の状況などの把握を定期的に行い、希望につなげるケアを期待する。
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	個別の計画書は作成されてあるが、本人及び家族との話し合いが、少ないようである。	○	利用者を良く理解し、関係の築かれている担当者が中心となって、介護計画の原案を作る方向も検討されている。今後の取り組みに期待したい。
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	本人の抱える課題について、家族との話し合いはなされているが、介護計画に盛り込まれないところが見える。	○	介護計画の期間に応じた計画の作成と見直し、家族からの同意を貰う時期など検討が望まれる。また、入居以前に本人の色々な情報の聞き取りをして欲しい。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	花巻市の病院まで、グループホームの車で通院を支援している。買い物は週3回、お盆には、自宅の草が気になる利用者と家に行き草取りしたり、お彼岸に墓参りに行ったりしている。仏壇に花を供えたりもした。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	遠野病院が多いが、入所前の“かかりつけ医”がある4人(タクシー利用)家族が介助をする人2人、薬を受け取るのは1人、グループホームで対応した時は、家族に報告をしている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	現在は、皆、介護度が軽く、ターミナルは考えていないが、現在入院している入居者がどのような戻り方になるか分からない。	○	隣接の老人保健施設、協力病院とも協力し、医療連携体制を検討することを期待する。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	その日の体調、心の状態を素早く察知し話題に気をつけて、対応している。自立の人が大半なので見守りを大事にしている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	「何をしたいか」が自分で言えない入居者には、声をかけて話題を引き出したりしている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	買い物で、献立が変更になることがあり、食に関しては臨機応変に対応している。訪問時、家族の届けてくれた「ブドウ」をみんなで食べた。調理の準備は協力して行っている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	午後は毎日入浴可能。仲よし同士で入浴する方もいる。嫌がる人には、声を掛けて、間を置いて入浴をしてもらうようにしている。体調によっては、清拭での対応もある。		
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	若い頃、大工さんだった利用者に、小鳥のえさ台を作ってもらうなど、楽しんでいる。ほころびを縫ったり、習字を楽しんだり、それぞれの「出来ること」の支援をしている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	散歩や買い物など希望に添った支援をしている。歩く時は、いつでも連絡が取れるように、見守り職員は、携帯電話を持って歩く。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	玄関にはセンサーを付けて、鍵はかけない。自室には、うち鍵を掛ける方もいる。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年2回実践訓練をしている。マニュアルは作成されてあるが、地域との協力体制はあまり出来ていない。男性職員が防火管理者の研修を受ける予定である。	○	運営推進会議のメンバーの協力を得て、地域と一体になった訓練ができれば良い。災害用備品を早急に準備されることを希望する。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	3ヶ月に1回法人の管理栄養士にチェックをしてもらい、指導を受けている。水分摂取チェックあり。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	木材を使用して作られ、木の香りが漂う。暦、時計も見やすい。イスやベンチが多く置かれてあり、思い思いに過ごすことができる。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時にパンフレットや説明で、持込を呼びかけているが、持込が少ない。テーブル、テレビの持ち込みがあった。入居者同士で居室での交流が図られていた。		